

◆ここまでのまとめ◆

◇わたしたちが食べているバナナは外国から専用船で大阪港に運ばれ、ムロでおいしくなって店に並ぶこと。

◇大阪港は大阪市内の西側に広がる大きな港で、人や物の輸送で大切な働きをしていること。

◇港が大切な働きをするためにたくさんの人が働いていて、さまざまな工夫や努力をしていること。



●阪神・淡路大震災

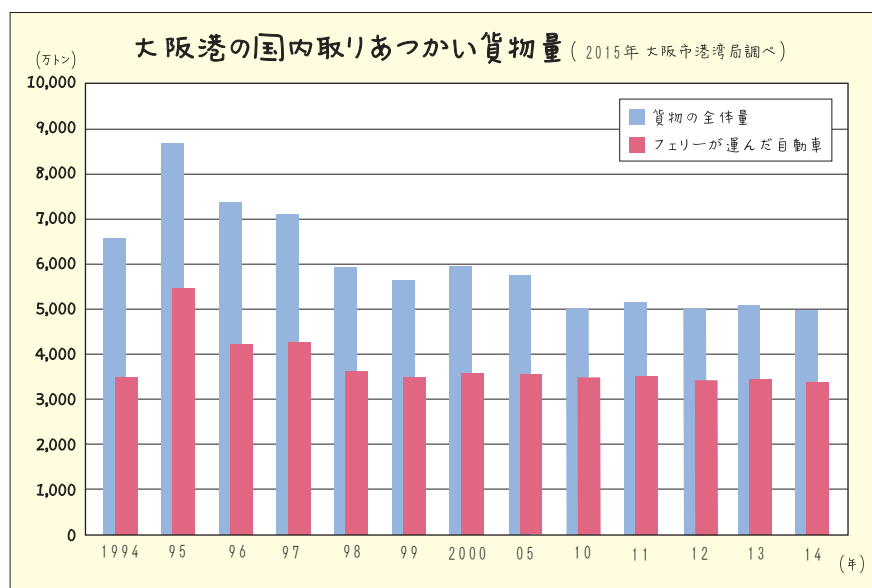
1995年（平成7年）1月17日午前5時46分淡路島の北部を震源として発生した、マグニチュード（地震の大きさ）7.3、震度（ゆれの強さ）7の大地震。亡くなった人は6400人をこえ、けがをした人も4万3000人以上、たおれた家はおよそ10万棟という大きな被害がでた。神戸港はふ頭などがこわれ、港としての働きができなくなった。この地震による被害額は10兆円以上とされる。

2 人びとの暮らしと産業をささえる大阪港

まゆかさんたちは、大阪港にはいろいろな働きがあることを知りました。みんなと手分けをして、もっとくわしく調べることにしました。

港湾局の人からもらった資料の中に「大阪港であつかった貨物量のうつりかわり」のグラフがありました。まゆかさんはその中から「国内の貨物」を選んで、ぼうグラフを作りました。フェリーが運んだ自動車も書き入れました。

〔1〕国内の貨物の動き



グラフから、大阪港であつかわれた国内の貨物量は、毎年約5000～6000万トンであることがわかります。その中で、1995～7年がふえているのは、1995年（平成7年）1月17日に起きた阪神・淡路大震災で神戸港が使えなくなり、船が大阪港へ来たためです。

1998年（平成10年）から減ってきているのは、1998年4月に明石海峡大橋が開通したため、今までフェリーを利用していた人や貨物が高速道路を利用するようになったからです。